

令和4年度 いのちの授業 事例集（小学校）【総合的な学習の時間】

掲載数

89

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小6	総合的な学習の時間	防災教育 「避難訓練をふり返し、地震からいのちをまもる」	地震や台風、津波、風水害などの災害場面における安全な行動について体験を通して学習した。身近なものを活用した簡単な応急手当が手軽なものに驚く様子や家庭での災害への日常の備え（非常持ち出し品）などについて真剣に考える姿が見られた。専門的な話を聞いたことで、防災を「自分ごと」と捉え、災害から自分たちの命を守るには、日頃から災害時の被害を想定して事前に準備をすることの大切さについて気づけた児童が多かった。	講師：損保ジャパンのみなさま
2 川崎市	小4	総合的な学習の時間	福祉教育 「パラリンピックについて伝えよう」	福祉学習の導入として、昨年度行われた、東京パラリンピック大会について、大会の目的や選手の生き方、考え方など、障害のある人でも、私たちと同じように、前向きに生活していることをとらえることができた。今後の福祉学習「ふれあいの輪を広げよう」につながると考えた。	道徳副読本 「光村図書」 より遠くへ 谷 真海
3 川崎市	小複合	総合的な学習の時間	「神奈川県わくわくモーモースクール」 ふれあい体験を通して命の大切さを知る	「乳牛や子牛とのふれあい体験を通じて、動物への関心を高めることや命の尊さを伝える。また、毎日飲んでいる牛乳の秘密を自分の目で確かめるとともに、酪農に対する理解を深める」という目的で授業を行った。【牛乳・乳製品コーナー】では、牛乳ができるまでをVTRや解説で学び、バターづくりの体験もした。【酪農体験コーナー】では、搾乳体験や子牛とのふれあい活動を行い、さらには、牧場の仕事や牛の体の秘密についても解説していただき、命の尊さを楽しく学ぶことができた。	神奈川県酪農教育ファーム推進委員会主催 食育、社会科、理科、算数、総合的な学習の合科で行った。 全学年実施で保護者の参観も呼びかけた。
4 川崎市	小複合	総合的な学習の時間	「神奈川県わくわくモーモースクール」 ふれあい体験を通して命の大切さを知る	「乳牛や子牛とのふれあい体験を通じて、動物への関心を高めることや命の尊さを伝える。また、毎日飲んでいる牛乳の秘密を自分の目で確かめるとともに、酪農に対する理解を深める」という目的で授業を行った。【牛乳・乳製品コーナー】では、牛乳ができるまでをVTRや解説で学び、バターづくりの体験もした。【酪農体験コーナー】では、搾乳体験や子牛とのふれあい活動を行い、さらには、牧場の仕事や牛の体の秘密についても解説していただき、命の尊さを楽しく学ぶことができた。	神奈川県酪農教育ファーム推進委員会主催 食育、社会科、理科、算数、総合的な学習の合科で行った。 全学年実施で保護者の参観も呼びかけた
5 川崎市	小5	総合的な学習の時間	防災教育 「大災害から身を守ろう」	国内で自然災害が毎年発生していること、世界の中でも災害発生数がとても多いことに気づき、自分の身を守ることに加え、自分にできることはないのかを考える。今年度は、地域の一員として、災害に備えて何かできることはないかと話し合い、地域の防災マップを作成した。	(講師) 幸区危機管理担当職員 (教材) 市、区の各種防災マップ

6	川崎市	小5	総合的な学習の時間	平間ガサガサ探検隊	学区に沿って流れる多摩川に行って生き物探しを体験し、そのことをきっかけに、アユやナマズを飼育することにした。毎日世話をする中でいのちについて考えたり、表現活動を通して、健康で安全に生きることについて考えることにつなげた。	
7	川崎市	小4	総合的な学習の時間	「共に歩もう」	SDGsについての学習の中から、より学びを深めていきたい目標として、「差別をなくそう」を選んだ。福祉の学習で学んだ車椅子ユーザーの方や視覚障がい者、いじめ問題などについても関連させながら、自分たちには何ができ、どのような気持ちをもって生活していくことが必要なのかについて話し合った。今の自分たちにすぐできることとして、「差別をなくそう」と呼びかけるポスターを作って校内に掲示し、学んだことを低学年に伝えていくことを考え、実践した。	講師 事故により下半身不随となった車椅子ユーザーの方。 視覚障害者センター登録の視覚障害による盲導犬ユーザーの方とセンターの方
8	川崎市	小6	総合的な学習の時間	【多文化共生】デザイン 「わ」見つける変わる手をつなぐ	川崎市には多くの外国から来た方が住んでいる。児童が住む地域にも、様々な国から来て日本で生活する人々がたくさんいる。「外国の方と共に生きるためにどんなことを大切にしたらよいのだろう」と探究課題を設定し、川崎市多文化共生課や川崎市国際交流協会の方から川崎市の現状や取組について話を聞いたり、東京大学大学院の国際文化パートナーの方たちと交流したりして、考えを深めていった。相手のことを知りその人のことを理解しようとする、自分と相手との違いを認め合おうとする事の大切さに気づき、共に生き、共によりよい社会をつくっていくことの重要性を理解することができた。	川崎市多文化共生課 川崎市国際交流協会 東京大学大学院・国際文化パートナーズ
9	川崎市	小5	総合的な学習の時間	上丸子防災広報室	令和元年に台風で被災した児童たちは「安心して暮らしたい」「台風への備えを知りたい」という思いをもって活動に取り組んだ。災害時にどうすれば自分や家族、身の周りの人たちが安全に行動できるかということに関心をもち、川崎市危機管理室職員、京浜河川事務所職員から話を聞いた。ゲストティーチャーから、事前に備えることの大切さを聞き、災害時に冷静に命を守る行動をできるようにしたいとマイタイムラインを作成した。自分たちだけでなく身の周りの人も安心して暮らせるように、マイタイムラインづくりを通して学んだ自助の大切さを伝える活動を行った。	川崎市危機管理室職員 京浜河川事務所職員
10	川崎市	小6	総合的な学習の時間	いのちの教育「命」	今の自分がいるのは、親から命をつないでもらっているからだ。講師の話から、母親の1mmの卵子から命が誕生した奇跡と、母親の胎内にいる期間の様子を知った。そして、命が誕生する瞬間の感動を映像から共有した。自分の命の素晴らしさを実感した。	<講師>命の授業専門
11	川崎市	小6	総合的な学習の時間	いのちの教育「SOS」	悩みを抱えている子どもが増えている状況について調べた。今の時分に悩みがないか自問自答する時間を設けた。人権について触れ、学校生活や家庭生活、友達関係など自分が置かれている環境を見つめ直す機会をつくった。そして、12歳まで生きてきて自分の存在を見つめ直す機会をもった。自分を大切にするために、困ったことがあれば周りの相談できる大人や友達にSOSを出しても良いことを学んだ。	<資料>川崎市教育委員会から配付されているSOSの出し方 <協力>学校コーディネーター

12	川崎市	小6	総合的な学習の時間	子どもたちに「いのちと死」の授業を	・川崎いのちの電話の内容説明 思春期を迎え様々な悩みや、問題を抱え始める子供たちが、かけがえのない一人一人の命を守るために、相談することや助けを求めることの大切さを学び、これからの自分にできることを考えた	かわさきいのちの電話 川崎市社会福祉協議会
13	川崎市	小6	総合的な学習の時間	いのちの大切さ「幸せな動物を増やすためにできること」	ペットの不適切な飼育、飼育放棄、また自治体で行われている動物の引き取り、殺処分等の現状について話を聞いた。なぜ、飼い主は、最後までペットを飼いきれずに動物を手放してしまうのか、そして、悲しい思いをする動物を減らすために、自分たちにどのようなことができるのか、具体的な方法についてグループディスカッションを行った。飼っているペットを最後まで責任をもって飼うこと。飼い主がいなくなった後のことも考え、手立てを考え準備すること。飼う前にしっかり計画を立てること。などの必要性を理解した。センターで飼育管理している動物に関心をもったり、自分の家で飼っているペットについて思いを寄せたりしていた。	川崎市動物愛護センター 「アニマモール」
14	川崎	小複合	総合的な学習の時間	岡上小「防災学習日」	岡上町内会の防災訓練が行われるのに合わせて、岡上小の児童も参加させていただいた。各学年の実態に応じて学習の内容は異なるが、地震対策・災害時の衛生指導・消防団の活動・地域の安全確認・岡上の町の特長について体験活動や講話を通して防災について学んだ。	・町内会防災担当 ・防災看護師 ・岡上消防団 ・高石町会消防士 ・岡上町内会長
15	相模原市	小4	総合的な学習の時間	多様性と調和	総合的な学習の時間で、福祉に関する学習を行っている。1学期は、向陽の町を探検し、駅や公園などのバリアフリーについて調べた。2学期は、「みんないい人体験」を通して、すべての人が暮らしやすい社会について考えることを学んだ（手話、視覚聴覚体験、点字、車椅子体験など）。どのような生き方をしていけばよいか、それぞれが考え、3学期は自分でできる活動を見つけ、取り組みを続けている。	相模原市社会福祉協議会
16	相模原市	小5	総合的な学習の時間	生命のつながり	二次性徴、生命のつながりについて	助産師さん
17	相模原市	小6	総合的な学習の時間	様々な方々の職業について話を聞こう	実際に出産に立ち会っている方から話を聞き、命の尊さ、奇跡を感じて、自分の命や周りの人の命を大切にすることを育んでほしいと考え、計画した。出産は母だけでなく赤ちゃんも痛みを伴うので、二人で力を合わせて生まれてきたことや、周りで出産に立ち会っているスタッフは、出産を最優先にして、命がけで一つの命を誕生させていることを知り、感動していた。改めて、自分の命と向き合い、生きていることに感謝し、大切に過ごしていきたいと考えていた。 また、消防隊員の方にもお話を伺い、人命救助などの観点から、いのちを大切に生きて欲しいといった話をうかがった。	ゲストティーチャー： 病院産婦人科スタッフ 相模原市消防隊員

18	相模原市	小5	総合的な学習の時間	米作り	5年生は地域の方に聞きながら田植え、稲刈り、脱穀を体験した。稲刈りし、脱穀したあとの米を大切に拾い集めて米袋に入れた。ふだん食べているご飯が一粒一粒の「いのち」の集まりであること、一年かけて色々な作業を経つつくられることを学習し、テーマごとに新聞にまとめた。その後、収穫した米をどうするか考えアイデアを出し合うことで、食料生産について、つくる人の思いについて、考えることができた。	
19	相模原市	小4	総合的な学習の時間	体の不自由な人の生活を考えよう	目の不自由な人の生活や車椅子を使って生活する人の話をオンラインで聞いた。実際に町で困っているときには、どういうことができるかを知ることができた。また、「ふくし」の意味について、みんなが普段の暮らしで感じる幸せと教えて下さり、体に障害のあるかに関わらず命を平等に考える言葉だと学ぶことができた。	相模原市社会福祉協議会 みんないい人体験講座
20	横須賀市	小3	総合的な学習の時間	大豆、だいずき！	総合で年間を通して、大豆を実際に育てた。他にも、国語「すがたをかえる大豆」や社会「農家の暮らし」、食育等、教科を横断して“大豆”について考えた。自分たちの手で育て、収穫をした経験を通して、『毎日水やりすることが大変だった。』と感じ、食べ物を育てる大変さと喜びを実感することができた。給食で大豆が入っている時も「今日は大豆くんが入っている！」と喜んで食べる顔が印象的だった。また、大豆について（歴史や栄養、魅力、すがたをかえている食品など）を調べてまとめ、発表を行った。色々なことを知っていくうちに大豆への愛着が湧いている児童が多くみられた。	大豆は、TVKの『大豆100粒運動』より申し込みをした。約200gの大豆が届いた。
21	横須賀市	小5	総合的な学習の時間	「SDG'sって何？～お米作りを通して持続可能について考えよう～」	横須賀の食料生産、その中でも特に農業をテーマとして扱い、自分達でも米を育てる体験をする中で、作物を育てるためには様々な努力が必要なことや、農業に関わる方の願いや工夫があることに気づかせたいと考え授業展開を組み立てた。そして、ここから見出した課題を全体で交流したり共有したりする中で探求課題を設定し、調べたり、考えたりする中で課題を自分ごととして捉えさせ、解決していくことを目指し様々な学習活動を行った。また、社会科で漁師の方とオンラインで話したことも、本単元の学習を深めるのに大いに役立った。	長崎の漁師の方
22	横須賀市	小複合	総合的な学習の時間	どこんじょうひまわりに込められた思いを伝えよう	地域の方のご協力を頂き特別支援学級の栽培活動に力を入れた。東日本大震災の際、がれきの中から芽を出したどこんじょうひまわりの種を受け継ぎ、花や緑も命ある大切なものとして最後まで責任をもち心を込めて育てることができた。夏空の下、黄金色に輝くどこんじょうひまわりを見た児童達は「負けない心」「励ましの心」「震災を忘れない心」を実感し、この思いを伝えたいと地域の施設や近隣校に収穫した種を届け、命の大切さを未来につなげる活動を行った。	・地域の方（グリーンアドバイザー） ・学校司書による「ひまわりの丘」読み聞かせ。 (参考資料) 「みやぎ東日本大震災津波伝承館」
23	横須賀市	小5	総合的な学習の時間	稲作文化と私たち	年間を通した総合的な時間において、稲作体験を行い、それを通して人々が稲作文化を培いながら向き合ってきた様々な“いのち”について体感するとともに、それを踏まえた志向を深めさせた。	外部講師（文化人類学、生物多様性の専門家他）

24	横須賀市	小3	総合的な学習の時間	みんながうれしい暮らし	総合的な学習の時間に「岩戸の町」をテーマに学習を進め、みんながうれしい暮らしができるためには、どうしたらよいかというテーマで学習を進めた。そのヒントを得るために、インターネットで動画を視聴したり、実際に障害のある方々やボランティアセンターの方々からお話を聞いたりして、障がいのある方々への理解を深めた。子どもたちは自分とは違う立場の人に思いを向けようとする意欲が芽生えたり、共通する部分を考えたりしていた。そして、授業のふりかえりでは、「岩戸の町だけでなく、みんなが暮らしやすい世界になるといいね。」という気づき生まれ、世界に目を向けることもできた。	視覚…誘導体験 聴覚…手話や講話
25	横須賀市	小4	総合的な学習の時間	外来種駆除と命の循環	荻野小学校近くの沢山池にはアメリカザリガニがたくさんいて、児童はザリガニが好きである。しかし、外来種について学習を進めていくと、ザリガニが、もともと池にいた生態系を壊していることを知り、駆除することにした。200匹ほど駆除に成功。駆除したザリガニをただ廃棄するのではなく、命の循環を考え、肥料にし、冬野菜を育てることにした。外来種が悪いのではなく、もってきてしまった人間も悪いのではないことを確かめ、命をつないでいくことの大切さを学んだ。	
26	湘南三浦	小複合	総合的な学習の時間	平和の話を聞く会	神奈川県原爆被災者の会の中村郁子さんを講師に招いて、戦争体験や被爆体験の話を聞き、子どもたちは、戦争の恐ろしさや命の大切さ、平和への願いを感じることができた。	講師は、原爆被災者の会
27	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	命のはじまり	助産師さんと保健師さんに来ていただき、命の始まりから赤ちゃんが生まれるまでの話を聞いて、命の大切さに気づく。赤ちゃん人形を実際に抱っこしたり、妊婦さんの話を聞いたりして、赤ちゃんは、みんな誰かの手を借りて育ってきたことを知る。プライベートゾーンや、心配なことがあったら信頼できる大人に相談することの大切さを知る。	【講師】 助産師1名 保健師2名
28	湘南三浦	小6	総合的な学習の時間	SDGs	世界には貧しくて苦しんでいる人がたくさんいるということを知り、そのような人とも「共に生きる」ために何ができるのかを考えた。そこで、「服のちからプロジェクト」を計画し学校全体で着られなくなった服を集めたり、情報を発信したりして自分たちにできることに取り組んだ。	ユニクロとの連携・全校での取り組み
29	湘南三浦	小3	総合的な学習の時間	蚕を育てよう (生きものの生命)	蚕を育て、まゆを活用することで、生き物の生命の重みを実感し、感謝の気持ちを育んだ。	
30	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	SDGs	持続可能な地球環境について、SDGsの17の目標に沿って考えた。その中で目標10「人や国の不平等をなくそう」をもとに、内戦により日本に亡命してきた難民の方のお話を聴くことで命の大切さについて考えた。	アルペ難民センター（十二所）

31	湘南三浦	小3	総合的な学習の時間	平和学習	原爆の子の像のモデル「佐々木禎子」さんの友人からオンラインで出前授業を聞き、平和や命の大切さについて考えた。 平和や命の大切さを皆に広めるために、朗読劇で表現し、保護者、他学年に発表した。	(オンライン授業) 『原爆の子の像 六年竹組の仲間達』
32	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	いのちの誕生	市内の助産師さんを招いて、人間の生命の誕生について話を聞いたり、お母さんのおなかの中での成長の様子を、人形をつかって学んだりした。 教室にいる仲間一人ひとりが大切にされてきた、かけがえのない命ということを改めて考えた。	保健師 助産師
33	湘南三浦	小3	総合的な学習の時間	谷戸活動体験	年間を通して、定期的に学習した。鎌倉中央公園内の谷戸という鎌倉の自然環境を学習に生かし、身近な自然を感じることを中心に活動した。春・秋・冬の谷戸を歩き自然から学ぶとともに、田畑の作業を行うことで、自然との共生についても実体験をとおして学んだ。	講師は、鎌倉中央公園の谷戸と動植物を保全するために市民活動を実践していた方々が行政との協働で立ち上げたNPO団体の方々
34	湘南三浦	小5	総合的な学習の時間	平和教育 「原爆の被害から考える」	「77年前に長崎に落ちた原爆」それがもし藤沢駅に落ちたら・・・、原爆が生み出す光(放射線)と熱と爆風。その脅威を分かりやすい数字や表現にして子どもたちに伝える。そして今なお世界中にあふれる核。たった一発でも恐ろしい核が、戦争の道具にされてしまったら世界はどうなってしまうのか。核の脅威を学ぶことで、改めて戦争のこわさ、平和の尊さ、そして命の大切さについて考えるきっかけとした。	【授業者】 長崎出身教員 【教材】 原爆の資料をもとにパワーポイントで作成した独自教材
35	湘南三浦	小6	総合的な学習の時間	人権教室	自分の身の回りにいる人たちに目を向け、行動に表すことの大切さについて知った。また、その難しさについても考えることができた。	講師はJICA横浜の職員 プロジェクターを用いて、写真を見ながら説明していただいた
36	湘南三浦	小3	総合的な学習の時間	藤沢市の食育	藤沢市の給食で扱われている食材をもとに『地産地消』を考える授業を栄養士の先生にいただいた。市内で栽培されている野菜だけでなく、食肉の管理や飼育についても『命』をテーマに考える授業を展開した。また、米の栽培にもアイガモが関係していることにも触れ、たくさんの命を繋いで私たちの健康が守られていることを学ぶことができた。	栄養士
37	湘南三浦	小5	総合的な学習の時間	防災教育 「地震からいのちを守る」	通常地震避難訓練とは別に授業を行った。大きな地震が起こった時、何が起こるのか、どんな方法で身を守るのかについて、自分達の教室を見直したり東日本大震災の時の防犯カメラの様子を見ながら、考えていった。最後に特別教室で避難訓練を行った時は、習ったことを活かし、身を守る為にできることを考えて実行する児童の姿があった。	講師は、慶應義塾大学准教授
38	湘南三浦	小3	総合的な学習の時間	防災教育「危険箇所をさがそう」	4～5人のグループで学区を歩き、「入りやすく見えづらい」危険箇所を探した。その危険箇所を写真に撮り、グループ毎に防犯マップを作成し、危険箇所を発表し合った。どういうところが危険なところなのか、自分たちの学区を歩くことによって体感した。学習を通し、自分の身の安全は自分で守るという意識を持つことかできるようになった。	防犯交通安全課職員 研修を受けたボランティアの方々

39	湘南三浦	小3	総合的な学習の時間	地域人材を活用した食育指導	給食の食材を学校に納品している学区の農家の方に来ていただき、小豆のこと、植え方、育て方をその都度指導していただいた。丁寧に育てても収穫できた小豆の量は僅かであり、児童は命をつないでいくことの難しさを育てていく体験を通して感じたようであった。また、自分たちの体験をまとめ、体育館で2・4年生に発表したことで、学んだことの定着がみられた。	地域の農家の方 2・4年生
40	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	いのちのおはなし	総合的な学習の時間の授業で、「いのちのおはなし」の学習を行った。体の発育・発達に触れながら、体験や寸劇、赤ちゃんのころのエピソードなどを授業に取り入れた。子どもたちがいのちの尊さについて考える貴重な機会となった。	講師は助産師（保護者）
41	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	CAPプログラム	生きる権利や暴力から身を守るなどについて、ロールプレイを交えながら考えた。その後、個別に相談を受ける時間を設け、希望者は現在抱えている悩みについて講師へ相談した。	講師はエンパワメントかながわの職員3名。 小6は7月に行った。
42	湘南三浦	小6	総合的な学習の時間	平和教育	外部講師を呼んで、戦争についての講和を聞いた。戦争について子ども達の疑問を外部講師に投げかける形で授業を行った。『特攻隊って何』『昭和の戦争について』『原爆、東京大空襲』の話を、実際に来てもらって話を聞く体験ができたことで、体験したことがない戦争時代の背景を深く理解することにつながった。最後に、『憲法第9条について』話を聞き、戦争はいけないということを全体で確認することができた。	外部講師
43	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	三浦海岸たんけん隊～海洋プラスチックごみ～	三浦海岸を探検し、海の生き物や海洋ゴミ等について調べたところ、一見きれいそうに見える三浦海岸に、マイクロプラスチックがたくさん落ちていることに気づいた。そこで、海洋プラスチックごみをテーマに学習を進めた。三浦海岸の砂浜からマイクロプラスチックを採取し、調べ、「生き物への影響」や「ごみを減らすための取組」など、新しい課題を見つけることができた。魚が餌と間違えてたべてしまうことや魚の体内に蓄積された化学物質が、人間の体にも影響をすることがわかり、海洋プラスチックごみが及ぼす、海の生き物や人間への影響についてまとめた。最後は、三浦の海、日本の海を守るために、自分たちができることについて考えた。	講師 三浦市教育委員会 (元水族館飼育員の職員)
44	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	ふれあい体験	いのちの学習として、助産師・妊婦さんに実際に来ていただき、妊娠・出産・子育ての話や、妊婦疑似体験、赤ちゃん人形のだっこ体験、実際の妊婦さんへのインタビュー等を通して、自分も同じように大切にされて育ってきたことやいのちの不思議さ、いのちの強さ等を実感することによって大切に育まれているいのちを大事にする気持ちを育てることができた。	葉山町子ども育成課 講師：助産師
45	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	障害福祉	・視覚障害者とのふれあい、講話や目隠し体験を通して、視覚に障害のある人たちの抱える困難や生き方について知り、自分の生活について考えることができた。 ・車いすユーザーとのふれあい、講話や車いす体験を通して、車いすユーザーの抱える困難や生き方について知り、自分の生活について考えることができた。	町の社会福祉協議会

46	湘南三浦	小6	総合的な学習の時間	違いの違い	「大人はたばこを吸ってもよいが中学生は吸ってはいけない」「ジョン君は肌の色が黒いが、トム君は白い」など、例示が記載されているカードを使い、「あってよい」違いか、「あってはいけない」違いかをグループで意見交換した。また、8時間かけて水を汲みに行く少女の映像を視聴し、違いには様々な背景があることを知るとともに、「いのち」や「ともに生きること」について考えた。	「違い」例示カード、ある国に住む13歳の少女の映像
47	県央	小5	総合的な学習の時間	社会の中のSDGs「わたしたちと動物の命のお話」	日本がペットの殺処分の多い国という問題の話から、盲導犬や警察犬などの動物と人間との関わり、殺処分を減らすための取り組みをしている団体の紹介などを通し、子どもたちに今後、動物の命を大切にしようとする心の育成を図った。	出前授業 ゾエティスジャパンの講師
48	県央	小複合	総合的な学習の時間	いじりといじめ	いじりといじめについて考えさせる内容だった。いじりはいじめにつながることに気づき、誰に対しても分け隔てなく相手を大切にしようという気持ちの変化が見られた。今までの生活を振り返り、これからの友達との関わり方について考える機会となった。	厚木警察署スクールサポーター 4、5、6年生で実施
49	県央	小4	総合的な学習の時間	広げよう！優しさの輪	総合的な学習の時間で、福祉に関する学習を1年を通して行ってきた。自分たちで気になったことを調べ、互いに発表し合ったり、実際に障がいのある方や、そういった方々を支える人々の講演を聴いたりして、福祉への理解を深めてきた。児童たちは実際に手話や車いすの体験などを通して障がいのある方々との関わり方を学んだ。また、「障がいがあることは可哀そうなこと、不幸なことではない。」「(事故にあって)もう無理だと思ったけれど、いつになっても夢に向かってチャレンジできる」など、障がいのある方々の気持ちや思いを受けて、自分のこれからの人生について前向きな気持ちを抱いた児童もいた。	厚木市社会福祉協議会 ・あおぞら会 ・あゆの会 厚木市南毛利地域包括支援センター 日本財団パラスポーツサポートセンター
50	県央	小4	総合的な学習の時間	福祉教育「小さな命も大切にする」	東日本大震災によって被災し、飼い主を失ったり、行き場をなくしたりした犬や猫を中心に保護活動をしている団体の方々に話を聞いた。災害は人間だけではなく犬や猫たちの生活や生命を脅かすものだということを知ると同時に犬や猫たちは、自分達の意志や力で命を維持することはできないということも知った。また、災害だけでなく人間の都合により殺処分されてしまう犬や猫たちがたくさんいることも知った。「人も動物も同じ命なのに。」「最後まで大切に飼いたい。」など命の大切さを知り、小さな命にも寄り添っていくことや人と動物が幸せに暮らす社会を実現するためにはどうしたらいいのか深く考えることができた。	一般社団法人「しっぽ村」 神奈川県動物愛護推進委員 (参考資料) ・犬と私の10の約束 ・しっぽ村冊子
51	県央	小4	総合的な学習の時間	福祉について	高齢者や障がい者への理解を深め、よりよい社会にしていこうために調べ学習を進めた。事前の調査では、親族以外の高齢者や障がい者に触れあったことがほとんどなく、どのような特徴をもっているのか、どのように支援していけばよいのか、不明瞭な児童が多かった。しかし、実際に体験した方の話を聞いたり、体の不自由さを体験してみたりして、自分たちができる支援をしていきたいと考えるようになった。車いす体験では乗る側の体験をし、ゆっくり押したり、後ろから優しく声をかけることの大切さに気付くことができた。福祉体験を通して、普段の生活の中でも他の人のことを考えて、自分たちに何ができるか深く考えることができた。	

52	県央	小複合	総合的な学習の時間	人権講演会 「ハンナのかばん」	<p>講師が実物を基にしたレプリカのハンナのかばんを提示し、質問を募った。実在したユダヤ人の少女ハンナの生涯をもとに、児童の質問に答える形で、差別と平等について講演をいただいた。</p> <p>写真資料でハンナの生涯を追いながら、戦時下、一部の政治家の扇動と市民の弱さが差別を当然とする社会風潮をつくった恐ろしさ、差別される側の理不尽さや深い悲しみが語られた。差別は許されない、誰もがみな平等であることが、くり返し話された。当時でも自身の正義を貫いた人物の紹介があり、自分で考え不義に立ち向かう強さやすばらしさも伝えられた。</p> <p>事後指導として、講演会を通して考えたことや今後の生活に生かしたいことを各自ワークシートにまとめた。</p>	<p>〈講師〉 NPO法人代表1名 〈対象〉 4～6年生 〈教材等〉 実物を基にしたレプリカの「ハンナのかばん」と写真資料を提示しながら、講演していただいた。</p>
53	県央	小4	総合的な学習の時間	いのちの教室	<p>講師の先生が「いのち」はかけがえのないものであることを説明。「みんなが生まれる前は、どこにいたか知ってるか」という問いかけから、赤ちゃんがお腹の中にいたことを確認し、お腹の中でどのように育ったのかを知った。また、お母さんが苦しい思いをしながらも自分たちのことを産んでくれたことを知り、自分の命も友達の命も大切にしていこうとする気持ちが高まった。</p>	<p>講師は、助産師と保健師。赤ちゃんの人形やスライド、DVDを見せることで子供たちにとって身近に感じることができた。</p>
54	県央	小4	総合的な学習の時間	福祉の授業	<p>一年間を通して、福祉について学び合った。11月には点字体験、12月にはアイマスク体験をした。アイマスク体験では、一人の子が介助する役と介助される役の両方を体験した。介助をする役の体験では、多くの子が緊張感や責任の重さなどを感じたようだった。一方、介助される役では、怖さや声かけの大切さなどを感じたようだった。</p>	
55	県央	小6	総合的な学習の時間	いのちについて考える	<p>命を守るための知識と技能を身につけさせることをねらいに、6年生を対象にAEDの簡易トレーニングキットを使用。心肺蘇生に関する知識と技能を講義と実技で学ぶことができた。児童は真剣に取り組んでいた。講師の「6年生であれば心肺蘇生ができるし、しなければいけない」という話が強く印象に残ったという児童が多くみられた。AEDを使用した講師による実演や最後に視聴したDVD映像も効果的だった。</p>	<p>講師は消防本部の職員 DVD映像 「あなたにしか救えない大切な命～元サッカー日本代表松田選手の場合～」</p>
56	県央	小4	総合的な学習の時間	防災学習	<p>大和市危機管理課 ・大和市の防災について講話 (防災マップの見方や災害時に役立つものなど) ・避難場所で使うもの等の説明 自衛隊第4施設群 ・宿営用天幕、特殊車両、偵察用オートバイ等の解説 児童は、災害への備えについて詳しく知ることができた。</p>	<p>講師：大和市危機管理課 講師：自衛隊第4施設群</p>
57	県央	小4	総合的な学習の時間	いのちの教室	<p>新生児が産まれる過程を、細かな説明を通して学んだ。新生児人形や骨盤の模型などを使用した出産の仕組みの説明や、出産時の映像を視聴することで、新たな命が生まれることについて理解を深めた。また、新生児人形を実際に抱いて命の重みを実感したり、命は愛されることで育つことを知ったりして、自分の育ってきた環境や、どの命も大切なものであることを学んだ。</p>	

58	県央	小4	総合的な学習の時間	いのちの授業	赤ちゃんが生まれてくるまで、生まれるときのお話。 大和市立病院産婦人科の助産師の方に来ていただき、お話をしていただいた。母親のおなかの中での成長の様子（小さな受精卵が約3000gにまで成長する様子）、おなかの中にいるときからとても大切に思われてきたこと、生まれた時の家族の喜び、現在に至るまでの家族や周囲の愛情などについて学び、命の大切さと命の重さについて考えた。また、人形を使って、乳幼児の抱っこ体験をした。	大和市立病院産婦人科助産師
59	県央	小4	総合的な学習の時間	やまといのちの教室	始めは点のような大きさだった命が、おなかの中で大きく育って誕生するまでの過程や、人形を使って赤ちゃんが自分の力で外の世界に出てくる過程などを見せてもらった。また、授業の最後には実際の赤ちゃんの重さの人形を一人ひとり抱っこをした。自分や友だちが歓迎されて生まれてきたことや大切にされて育てられたことを感じられたようだった。	講師は、大和市すくすく子育て課保健師・大和市立病院小児科医。 赤ちゃんが生まれる瞬間のDVDや赤ちゃん人形などを活用。視覚的・体感的にいのちの重さを感じることができた。
60	県央	小6	総合的な学習の時間	「いのち」について考えよう	1年間を通して、「いのち」という大きなテーマを、差別・災害・いじめ・戦争・命の誕生などに分類し、児童が自分が最も興味を持ったものについて調べるという形で学習を進めている。その中で2学期(左記には9月と記したが、実際には2学期中であり、9月に限ったものではない)に、災害に関しては市内消防署に務める消防士の方、差別に関してはホロコースト教育資料センターkokoroの代表の方、戦時体験の語り部の方)と、このようにそれぞれの分野に通じるゲストティーチャーを招き、講演をしていただいた。児童たちは真剣に話を聞いていた。	市内消防署職員・ホロコースト教育資料センターkokoroの代表の方・戦時体験の語り部の方 それぞれ事前に用意して下さったスライド資料をもとにお話しして下さった。写真等、具体的な資料が多く、児童は実感をもって講演を聞くことができた。
61	県央	小6	総合的な学習の時間	「いのち」について考えよう	1年間を通して、「いのち」という大きなテーマを、差別・災害・いじめ・戦争・命の誕生などに分類し、児童が自分が最も興味を持ったものについて調べるという形で学習を進めている。1学期、2学期には命について「知ること」を進めており、命の誕生の絵本を読んだりゲストティーチャーの講演を聞いたりした。3学期には、グループごとに興味を持ったテーマを設定し、クラス単位でプレゼンテーションを行う予定である。児童は差別・災害・いじめ・戦争・命の誕生などそれぞれのテーマに沿った提言をさせたい。	
62	県央	小6	総合的な学習の時間	「人権教育」	神奈川県教育委員会の人権学習ワークシート集をもとに、人権とは何かを考えさせ、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める」という気持ちを育てるために1学期間学習に取り組んだ。	
63	県央	小4	総合的な学習の時間	防災について地域とともに考えよう	神奈川県総合防災センターの見学に行った。災害が起こる前の備えや、実際起きた時の災害状況や避難方法を、映像や体験などを通して学ぶことができた。地震や暴風の体験では、いざという時にどのような行動をとればいいのか、よく考えることができた。自然災害から自分の命を守る大切さを実感することができた。	

64	県央	小5	総合的な学習の時間	広げようSDGs	年間を通じて「SDGs」をテーマに学習している。1学期は「私たちとSDGs」をテーマとし、自分で決めたテーマについて調べ、発表し、交流したことで、日本や世界の現状や問題点を知った。2学期は「広げようSDGs」をテーマとし、SDGsとアフリカ諸国の現状を結び付けて考え、飢餓や貧困、教育問題など、日本との比較を通して視野を広げた。アフリカ諸国の子どもたちがいのちを守るために努力していることを学び、自分たちにできることは何かを考えた。	図書館司書と連携し、本やインターネットを使って調べ学習を行った。
65	県央	小3	総合的な学習の時間	防災教育「座間再発見」	大きな災害、その中でも特に地震から身を守ることに着目して授業を計画した。社会科との横断的な学習から、学校の防災設備、敷地内の防災備蓄倉庫の調査活動、校長から学校の防災についての講話、消防署での煙体験など体験活動から学んだことを再構築して新聞にまとめた。3学期は、学んだことからお家の方へ向けて「みんなの役に立つ防災発表会」を準備し、発信活動をしていく。自助から、共助へと意識を広げていき、児童から家庭へと防災意識を深めていく。	座間市消防署本部見学
66	県央	小6	総合的な学習の時間	防災	6年生では、年間を通じた総合の学習として、「防災」について取り組んでいる。本時の学習では、目標を「図上演習で家の危険な所をつかむ！」として、家の部屋の様子を平面図に書いて、危険個所をチェックする課題に取り組んだ。児童からは、「実は危険な箇所ばかりで安全なところが少ない」という意見が多く聞かれた。どうやって危険個所を減らせるか、そのための工夫やグッズを調べたいという感想から、次週の調べ学習へとつながった。また、家庭にも協力してもらい、児童たちが調べた危険個所をチェックしてみても感想を書いてもらった。「改めて家の安全を考え、反省させられた。」など、家庭を含めた命を考える防災活動につながった。	保護者の協力
67	県央	小5	総合的な学習の時間	平和教育「白旗の少女の話からいのちについて考える」	現在もお戦争や紛争が世界各地で続いている。日本に住む私たちも無関係ではられない状況にある。どうしていけないと分かっている争いを人はしてしまうのか、戦争によって人々の生活はどうなってしまうのか、白旗の少女の話から考えさせた。まだ6歳の少女が命からがら生き延びていった状況を、映像教材と合わせて見せることで、子どもたちは自身が想像していたよりはるかに過酷で残酷な実態に驚いていた。戦争は絶対にいけないことを実感し、いのちの大切さについて考えている様子が見られた。	参考教材 ・図書「白旗の少女」 ・ドキュメンタリー映画「白旗の少女」
68	県央	小4	総合的な学習の時間	命を守る防災教育	「防災クロスロード」いつ起きてもおかしくない地震について考える授業。「朝の忙しい時間に、お家のはキッチンで目玉焼きを作りながら、洗濯物を干すために、ちがう部屋に行きました。あなたはテレビを見ながら着替えています。そのときに大きな地震がきました。あなたは火を止めに行きますか？」などのような問いに「yes」か「no」で答える。明確な答えがない質問に対して、それぞれに判断し、友達と意見交換した。どうすれば命を守れるのかについて考えを深めることができた。	防災クロスロード

69	県央	小6	総合的な学習の時間	『薬物乱用防止教室』 6年生（学年）	今年度は講師をお呼びして「薬物乱用防止教室」を開催することができた。本校の6年生93名に対して、「薬物とは何か」や「薬物が及ぼす身体への影響」について実体験をもとにした貴重なお話を伺うことができた。児童は保健で学習した内容ともつながりがあったため、先生のお話真剣に耳を傾けていた。授業後の感想には、命は一つしかないから大切にしていきたいという考えが多く書かれていた。 外部講師にお越しいただくことで、様々な人とのふれあいを増やしたり専門的なお話を聞いたりする機会になった。	
70	中	小5	総合的な学習の時間	防災 「校内の防災マップを作ろう」	学校での取組の一部として「防災たいむ」という時間が設けてある。地震、火事、津波、台風等の有事に備えて、自分たちはどのように行動すればいいのか、また大切なことは何かを学んでいる。そういった取組の中で、自分たちで校内の防災マップを作成し、周知したいという動きがあった。既存の校内の防災マップを見直し、実際に自分たちの目で防災設備を確認した。その後、階ごとにチーム分けし、危ないところはないかや気付いたことを書き込んだオリジナルのマップを作成することができた。お互いにマップを見合い、避難の仕方などを話し合う姿も見られた。	
71	中	小3	総合的な学習の時間	生き方 ～チャレンジ！あきらめない心～	車いすバスケットボール体験を通して、心と環境のバリアフリーを目指し、「自分ができること」を考える機会とする。また、相手を思いやる気持ちや仲間と協力する姿勢の大切さに気付く。	湘南スポーツクラブ 車いすバスケ体験講座 「福祉学習・車椅子バスケットボール体験講演会」
72	中	小4	総合的な学習の時間	金目川について学ぼう	総合の授業で学校のそばを流れる金目川について学ぶ機会があった。地域の方に金目川の歴史について教えてもらったり、東海大学の先生や学生から、金目川の生態系について実際に川に入って教えてもらったりした。その中で、もうすでに金目川では見られない生き物がいることを知り、どうすれば金目川の生態系を守ることができるのかなどを調べた。水質をきれいに保つ方法や、地域の方へ金目川を大切にしてほしいという思いを伝えるためにポスターを制作した。	東海大学 先生・生徒 地域の方
73	中	小3	総合的な学習の時間	「生き方！」 チャレンジ～あきらめない心～	障がい者の福祉について、講話を聞き命の大切さと生きることへの希望について考える。また、車いすバスケットを体験し、他人を思いやる気持ちや仲間と協力する姿勢の大切さに気付いていくようにする。 (児童の感想) ・車いすの人たちは大変だなと思ったけど、特に大変と思ったことはないと言っていてびっくりした。自分の考え方が間違っていたなと思った。 ・自分の命を大切に生きていてかっこよかった。自分も命を大切にしていきたい。	講師：湘南スポーツ クラブ

74	中	小6	総合的な学習の時間	キャリア教育 「動物の命に携わる仕事」	<p>「平塚のら猫を減らす会」では、捨て猫・のら猫を保護し、去勢・避妊手術の後、譲渡会を開いて里親を探したり、地域猫として生活できるようにしたりして、猫たちを殺処分から救う活動を行っている。</p> <p>猫たちを救う取り組みについて、どのようなやりがいがあるか、話を聞いた。</p> <p>また、グルーマーとして活躍されている方にも、動物と関わる仕事の内容ややりがいについて話を聞いた。</p> <p>子どもたちは動物の命や健康を守る仕事には様々な立場の方が携わっているのだと知り、その仕事に憧れを抱く児童もいた。</p>	(講師) 平塚のら猫を減らす会職員 グルーマー
75	中	小5	総合的な学習の時間	「認知症サポーターになろう」	<p>認知症とはどのような症状か、認知症の人にはどのように接したらよいかを学んだ。</p> <p>身近な人が認知症になってしまった時、もしくは既に認知症の家族がいてその家族と接する時に役立てようと心に留める児童が多かった。</p> <p>また、脳の働きを促す認知症予防のゲームを教わり、体験した。</p> <p>「認知症サポーター養成講座」受講の証としてオレンジリングをもらい、さらに、認知症の方やサポーターの方が一つ一つ作ってくださったロボのストラップもいただいた。</p> <p>認知症の方、そうでない方、サポーターの方、皆で支え合って地域で生きていること、自分たちにもできることがあることを学んだ。</p>	(講師) 特別養護老人ホーム 平塚 富士白苑職員
76	中	小3	総合的な学習の時間	難病を抱えて生きる人から学ぼう	<p>元小学校教諭でALSの方から「難病と診断されてから14年間、どのように生きてきたか」の講演を聞いた。目の動きで操作できるパソコンで会話をする、人工呼吸器をつけ、電動車椅子に乗って買い物したり電車で出かけたりしていることなど、難病を抱えながらも多くの人の協力を得ながら明るく前向きに生活している様子が伝わってきた。最後に「弱い人も生きていける温かい社会であってほしい」というメッセージで締めくくられた。講演を聞いた子どもたちは、「自分や周りの人たちを大切にすること」「体の弱い人には手を差し伸べること」など、命の大切さや困難な状況でも負けずに生きることを学んでいた。</p>	講師 元小学校教諭
77	中	小3	総合的な学習の時間	ろう学校と交流しよう	<p>学区内にろう学校があり、そこに通う児童と友達になりたいという思いをもった。オンラインで交流を3回行った後、実際にろう学校を訪れ、なかよし交流会を開催した。子どもたちは、ろう学校の友達が安全に安心して遊べるよう、プログラムや遊びのルールを工夫した。また、自分の手話が相手に伝わると、安心するとともに伝わる喜びも感じていた。ろう学校との交流から、障がいのあるなしに関わらず、相手の立場に立って思いやりをもって接する大切さや人と心が通い合う喜びを学んだ。</p>	平塚市社会福祉協議会

78	中	小3	総合的な学習の時間	命の重み	<p>生き物の里について学習を積み重ねてきた。年末にお会いした方がイノシシを捕獲し食べていることを知り、どうしてそのようなことをしているのかということについて考えることをきっかけに、イノシシが増え続けていること、人に対して危害を与える事例があること、畑を荒らしたり、野菜を食べてしまったりすることがあるということを知った。とはいえ、人間中心に物事を考え、イノシシの命を絶ってしまってもよいのかということについて全員で考えた。</p> <p>なかなかよい考えが出ない中、家庭で、イノシシなどの野外動物が食べてもよいように場所を設け、食べ残ったものなどを置いているということを知り、共存する術があることに気づくことができた。</p>	
79	中	小4	総合的な学習の時間	防災学習	<p>大きな災害を知らない子ども達にとって、大地震や自然災害というものは実感を持ちにくく、避難所生活というものは想像すら難しい。実際に大地震が来た時の映像やハザードマップについて説明をしていただき、学校が避難所になった時に使われる備蓄倉庫の見学や、段ボールベッドの組み立て体験を行った。学校の備蓄だけでは足りないので家の非常時の持ち出しバックについてや、ハザードマップを見て、学校の周りや自分の住んでいる地域のリスクについて、家族と話してきた児童がいた。自分の命を守るためにできることをふりかえる時間となった。</p>	<p>講師は、市の危機管理課に依頼。学校にある備蓄倉庫の中にあるものや段ボールベッドの組み立てについて教えていただいた。</p>
80	中	小3	総合的な学習の時間	動物のいのち	<p>自分たちが飼育しているうさぎの「デール」の死に立ち会い、いのちについて考える機会となった。そのうさぎは、1年生の終わりに、もうすぐ卒業していく6年生から受け継ぎ、これまで飼育をしてきた。餌やりや小屋の掃除、ふれあう時間を通して、生きものの温かさや世話の大切さを学んできている。そんなうさぎの「デール」がある日当番の仕事に行くと小屋から出てこなかった。今の6年生が小屋から出してきて死んでしまっている事に対面する。泣いている児童や言葉にならない様子を見せている児童等、ほとんどの児童が死に初めて対面する事となった。世話をしっかりすること、生きものを大切にすること、命はずっと続くのではないことを学ぶ機会となった。</p>	学年全体で学ぶ機会とする。
81	中	小3	総合的な学習の時間	Pepperと考える「思いやりの心と親切」	<p>ロボットと触れ合いながら、ロボットが学校生活を送るためには、どんなところで困るのか、どんな手助けができるのか等について、ロボットの立場になって考えた。そのことを通して、相手の立場を考えて思いやりのある行動をとろうとする心情や態度を育むことをねらいとする授業をロボットとともにやった。</p>	授業だけでなく、登下校時に全校児童とロボットが触れ合う機会を設けることができた。
82	県西	小複合	総合的な学習の時間	福祉学習	<p>全校児童を対象に、車いすバスケットボール体験を行った。体の不自由な方とのふれあいを通し、心と環境のバリアフリーや自分ができることについて考えた。この体験を通して、周りの人を思いやる気持ちや協力することの大切さに気づいた。「今がんばっていることを聞き、日本代表を目指していることを知ってすごいと感じた」（児童）「生き生きとスポーツを楽しむ姿から自分の目標に向かって努力している話を聞くことを通して、障がいの有無に関わらず努力することや周りの人にそっと寄り添うことについて考える時間となった」（教員）などの感想があった。どのような状況でも前向きに目標をもち、いのちを輝かせて生きる姿を実感することで大きな学びがあった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で実施 ・湘南スポーツクラブ車いすバスケット選手

83	県西	小4	総合的な学習の時間	「みんなで守ろう命と自然」	<p>社会科の防災の学習から自然災害や公共の防災への取り組みを知った。そこから、総合学習で自然災害の仕組みや、災害の種類に合った避難方法を調べ始めた。夏休みには各自、自宅から避難場所まで行く経路を家族とともに実際に歩き、津波の場合は海から離れた道を選択し避難場所ではなく高い所に逃げることに気付くことができた。ひとりで留守番をしていた時の避難行動も家族と一緒に考え、見通しをもつこともできた。</p> <p>様々なことを調べていくなかで、地域の防災マップをプログラミングで作りと、家族にも伝えたい、知らせたいと意欲が高まった。約7ヶ月間取り組んだ学習から、自助、共助の大切さを校内児童や学校参観日に保護者に伝えることができた。</p>	NHK学ぼうBOSAI 命を守る防災の知恵 金の星社 等
84	県西	小複合	総合的な学習の時間	ウミガメの命を守ろう	<p>以前、学区の海岸で「ウミガメの赤ちゃんが孵化した。」という情報があったことをきっかけに、海のゴミがウミガメなど生き物の命を脅かしていることを学んだ。</p> <p>今年度は環境美化委員会を中心に「ウミガメが来られる海岸にしたい。」という思いから、毎月一度、海岸清掃を計画し、縦割りのグループで全校一斉の海岸清掃をした。子どもたちは「ウミガメの命を守ろう。」という思いをもち、総合学習などでのSDGsの考え方も関連させながら、命について知識と体験を結びつけて学ぶことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各担任 ・環境美化担当
85	県西	小3	総合的な学習の時間	大豆のひみつをさぐる	<p>「大豆100粒運動」に申し込み、大豆の種をもらった。大豆を育て、最後にきな粉を作るという目標を設定し、大豆のことについて調べ学習をすると共に、畑を耕し、草むしりや畝作りを行った。一人一人が種まきから収穫まで関わったことで、自分の大豆を大切に育てたいという姿が見られた。栄養士の先生には、給食の献立に、大豆や大豆の加工品がたくさん使われている理由や加工の仕方について話していただき、大豆の栄養についてクラス全体で共有することができた。収穫・脱穀した大豆をきな粉にしたときには、「大豆を育てることがこんなにたいへんだとは思わなかった。でも、すごくおいしい。」という感想をもつ児童が多かった。</p>	<p>実施月…6月～12月</p> <p>国語「すがたをかえる大豆」</p> <p>理科「植物の育ち方」</p> <p>食育「大豆の栄養について」講師：栄養士</p>
86	県西	小4	総合的な学習の時間	災害時の自助・共助	<p>災害時の避難所の様子を写した写真を見たり、講師の話の聞いたりして、災害時に大切な自助や共助について学んだ。災害時の避難所は、狭い空間にたくさんの方がいる状態でもストレスがかかることや、家や大切な人を失ったときの喪失感・悲しみを想像しながら学習した。災害時にできることは子ども自分たちにもあると気づき、自分を守り他者と協力していきたいという考えをもっていた。また、自分の命を守るための避難訓練の大切さを感じている児童も多くいた。</p>	<p>日本赤十字社の方</p> <p>南足柄市社会福祉協議会の方</p> <p>「守るいのち 広がる防災」日本赤十字社</p>
87	県西	小4	総合的な学習の時間	へちまたわしを作ろう	<p>理科の学習でへちまを育てた。種をまくときには、「自分たちのグループが分かるようにポットに印をつけよう」など、自分が育てる生き物を大切にしようとする姿が見られた。そして、秋まで観察を続け、やがて実が枯れてきた。「枯れてきた実をこれからどうするか。」と問いかけると、一人一台端末を活用し、調べてまとめた。その結果、枯れたへちまを有効活用できるので、たわしを作ることに決めた。子どもたちは自分たちが育てた「いのち」を最後まで生かすことができた喜びを感じていた。</p>	特になし

88	県西	小複合	総合的な学習の時間 潮だまりでの生物採集・観察を通して普段の生活で、目にする陸上の生物や生態系とは違った海の世界を楽しむとともに、それを育む環境を学ぶ	近くにある舟付海岸において、磯の生物の観察会を行った。講師は海やその生態系を理解してもらおうと努めているディスカバールーの職員2名。講師からの諸注意の後、子どもたちは磯の生物を実際に採集した。生物は種類ごとに分けられ、講師から名前や特徴の説明を受けた。最初は磯に入ることや海の生物を採集するのにためらいを感じる子どももいたが、次第に慣れ、普段できない体験に喜びを感じながら取り組んでいた。また、自分たちの身近にこのような豊かな自然があるということを改めて感じる事ができた。3年生は、この学習を受け、さらに海にはどんな生き物がいるのかインターネット等を活用して調べ、学習発表会で発表することができた。	ディスカバールー職員 3・4年生対象 総合的な学習の時間
89	県西	小複合	漁船体験を通して、郷土の人とふれあったり、郷土の地形を理解したりして、郷土を愛する心情を育てる。湯河原近海の自然の豊かさを知り、そこで育まれる命や環境を大切にしなければならないという心情を育てる。	福浦漁港の漁業組合の協力のもと、漁船体験を行った。子どもたちは漁船に乗って漁場へ行き、定置網漁を見せてもらった。捕れた魚の名前や特徴、どんな魚が捕れるのか説明もあった。その後、漁場でディスカバールーの職員がプランクトンを採集し、学校へ戻り、顕微鏡を使ってプランクトンの観察会を行った。また、スライドを使って、プランクトンの名前や特徴の説明や、湯河原の海の生き物の自然（命）のサイクルがどのようになっているのか、説明を受けた。子どもたちは湯河原の海の豊かさと、自然環境（命）を大切にしなければならないことを改めて感じる事ができた。6年生はこの学習を受け、豊かなふるさとの海（吉浜海岸）に多くのゴミが捨てられていることに課題をもち、「SDG'sを広めよう」というテーマのもと、プラスチックごみの問題などについて調べ、学習発表会で発信することができた。	講師 ・福浦漁港の漁師の皆さん ・ディスカバールー職員 5・6年生対象 総合的な学習の時間